

学習内容報告書

学校名	島根県 益田市立安田小学校
授業者	岡野 昇 ・ 小島 祐哉

1. 単元計画

1-1. 単元名

海と森林の環境を考えよう

1-2. 学年

第4学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間 国語科 社会科 図画工作科

1-4. 単元の概要

学校がある地域は山、海がある自然に恵まれた地域である。しかし、子どもたちの生活の中では、その恵みを喜んだり、その美しさやふるさとのよさを感じたりする時間は極めて少ないのが実情である。そこで、ふるさとの自然に目を向け、自分たちの住んでいる地域のよさや課題をあえて実感させていく必要があると考えた。安田の海の生き物やそれを取り巻く環境を学んだり、安田の海に関する地域の実情を考えさせたりするとともに、海を大切にしている方々に出会わせ海への思いや行動、生き方についても考えさせられるような学びを目指している。また、市内を流れる一級河川の高津川の源流見学や川遊び（ガサガサ）体験、森林見学や講話、植林体験をとおして、森林の働きと海とのつながりに気付かせる学びを目指している。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- ・安田の海に関する探究的な学習を通して、安田の海の生き物やそれを取り巻く環境、人々との関わりについて理解する。
- ・体験的活動から、課題を見出し、解決に必要な情報を収集し、解決にむけて何ができるかを考え、まとめ、表現する力を育てる。
- ・海に関わる人々や、生き物に進んで関わったり、生き物が暮らしやすい環境に改善したりしようとする態度を育てる。
- ・清流日本一に幾度となく輝く高津川、またそれを取り巻く森林の働きに、様々な体験をとおして、海とのつながりに気付かせる。
- ・日常生活の中で自分たちができることを考え、実践しようとする態度を育てる。

1-6. 育みたい資質や能力，態度

知識及び技能		安田の海や森林の現状や環境を保全する人々の工夫や努力が分かる。
		情報を比較・分類するなど，探究の過程に応じた技能を身に付けている。
思考力・判断力・表現力	課題の設定	自分の関心から地域についての課題を設定し，解決方法を考えて追究している。
	情報の収集	目的に応じた対象を決め，自分たちの身近なところから情報を集めている。
	整理・分析	問題状況における事実や関係を，事象を比較したり分類したり，数量などで客観的に比較したりして，特徴を見付けている。
	まとめ・表現	相手に応じてわかりやすくまとめ，表現している。
	振り返り	学習したことをふり返り，生活に生かそうとしている。
学びに向かう力 人間性	主体性	課題の解決に向け，目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。
	協働性	課題解決に向けて，身近な人と力を合わせて探究活動に取り組んでいる。
	自己理解	自分のよさや自分にできることに気付いている。
	他者理解	自分と異なる意見や考えがあることに気付き，相手の立場を理解する。
	社会参画	自分と地域とのつながりに気付き，地域の活動に参加しようとしている。

1-7. 単元の展開（全70時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
20	<p>知ろう！安田の海！！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁港見学 ・生き物探し ・生き物調べ 	<p>安田の海の生き物について興味・関心をもち、尋ねたり調べたりしたことを分かりやすくまとめて発表することができる。</p> <p>（外部連携）アンダンテ21 地元の漁師の方々</p>
15	<p>持石海岸ごみ清掃及び津田海岸漂着物調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくら貝、はまぐり調査 ・持石海岸での漂着物調査 ・津田海岸での漂着物調査 ・ハマグリアートの作成 	<p>市内の持石海岸及び安田の海の漂着物を調査し、それを比較分類することで、課題を見つけることができる。</p> <p>（外部協力）アンダンテ21 島根県廃棄物対策課</p>
35	<p>きれいな安田の海を守っていくために、自分たちができることを考え、発信しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関する調べ学習 ・学習発表会での表現 ・プレゼンテーション 	<p>課題の解決に必要な情報を収集し、解決に向けて何ができるかを考え、まとめ、表現することができる。</p> <p>（外部協力）アンダンテ21 コアラッチ</p>

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 70 時間中の 65・66 時間目

※例：単元10時間中の2時間目 / 単元15時間中の4,5時間目

2-2. 本時の目標

これまでの体験や学びをとおして、安田の海をはじめ自然豊かなふるさとの環境を守るために、自分のできることを伝える。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 本時の課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p>自然豊かなふるさとの環境を守るために、自分のできることを伝えよう</p></div> <p>2 プレゼンテーションを行う</p> <ul style="list-style-type: none">・プレゼンテーションソフトを活用し、自分が実践することを友達や家族に伝える。 <p>3 本時の学習内容のふりかえり, これからの実践への意欲をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none">・これまでの体験や学びを想起できるよう, 写真等を掲示しておく。・伝えたいことは何かに焦点化して発表をすること, 聞くことを確認する。・友達や家族の感想を伝える時間を確保する。(プレゼンテーション, 発言)・一人一人の実践が, 安田の海を守ること, ふるさとの自然を守ること, 持続可能な社会をつくることにつながることを知らせる。(ワークシート)

3. 今回の活動の自己評価

コロナ禍で、感染拡大防止対策を十分に講じたうえでの活動であったが、今年度もアンダンテ21や地元の漁師の方々、益田市や島根県の関係機関の方々の協力のもと、児童にとって大変充実した学習活動を展開することができた。海辺に住む児童もいれば山間部に住む児童もあり、海に係る経験値は様々であるが、総じて海水浴以外の海での遊び経験はほぼないのが実情である。本単元は、安田の海を実際に体験し、海と密接にかかわる方々とふれあうという本物体験をとおして、ふるさとのよさ、自然の豊かさを見つめ直す貴重な学習である。様々なことに興味関心をもつ中学年時に本単元を設定することがもつ意義は大きい。

さらに、SDGsについて学習内容を広げ、安田の海を守る取組はもちろんのこと、ふるさと益田、地球環境を守っていくために、自分に何ができるか考える契機となった。他人事から自分事へと意識を転換し、自らが海を守る実践するだけでなく、友達や家族へ思いを伝え、広げていく姿から、海と共に生きる実践者を育てる一助となったと思う。

4. 今後の課題

図書資料やインターネットなどで調べたことより、1回の本物体験が、子どもたちにとっては感じることで、学ぶことが大きい。友達や家族に発信することで、自分事として捉えて活動する子どもが増えている。今後さらにICTを効果的に活用し、まずは市内の学校との交流活動を設定し、より海を知り、海と親しみ、海を守る取組を推進していきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

関係機関との打合せを綿密に行うこと。